

グラントを活かした 民間資金との共創連携促進

日本ファンドレイジング協会 代表理事

GSG 日本国内諮問委員会 副委員長

Asia Venture Philanthropy Network, Japan Advisor

鵜尾雅隆



2024-2030 年の世界をどう見るか

インパクトフィランソロピー×インパクト投資の融合が世界の未来に影響

日本の3つの重要なトレンド

- 遺贈寄付の急増
- HNWIsの動き拡大
- 企業CSRの戦略化

世界の重要なトレンド

- 財団のインパクト投資拡大
- アジアの財団の成長
- NGO主導の投資ファンド

インパクト投資は真に社会課題解決にまだつながっていない

例) 気候変動投資の13%のみがEMDE(新興・途上国)へ
DFI, MDBの資金の18%だけが民間投資レバレッジを意図

DFIは今、重要かつ理想的なポジションにいる

- リスク低減のための役割
- Blended Financingとデータ提供の重要性
- 各EMDEのローカルのInstitution Asset のUnlock
- 各EMDEの国内エコシステムの支援が重要等

IMPACT INVESTMENT: THE INVISIBLE HEART OF MARKETS



Harnessing the power of entrepreneurship,
innovation and capital for public good

Toward Impact Economy

提言：民間資金をグローバルサウスの最適な発展につなげるために

3つの政策的方向性があれば、確実に未来のODA x 民間資金は次の次元へ

哲学・指標・評価の軸の進化

- ◆「民間投資がEMDEの人々の暮らし改善に資するためのODA」という価値軸の表明
- ◆新規案件のKPIに民間リソースレバレッジの評価軸を主流化
- ◆All Japanとしての途上国への資金総量を目標KPIに（非ODA関連事業含め）

民間資金活用をメインSTREAM化 させるための既存事業の「Unlock」

- ◆法：国際約束に基づかない事業領域拡大/NPOや財団のインパクト投資緩和
- ◆外務省：N連に国境を越え、フレキシブルな「リージョナルグラント・イシューグラント」へ緩和
- ◆JICA：グローバルアジェンダを軸とした共創案件形成調査スキームの創設・拡大
各国・地域のエコシステム形成支援xSDG中小企業海外進出支援事業との有機的接続
インパクト評価を含めた「接続」を意識した企業成長支援

アウトカムファンドの実現

- ◆主要イシュー毎にアウトカムファンドを創る
- ◆日本版マッチンググラントの仕組みの導入

フィランソロピー資金の可能性と課題

増加する遺贈寄付や富裕層の社会貢献。公益信託法・公益法人法の改正やクラファンなどの仕組みの進化。しかしインパクト・フィランソロピーの感覚が未発達な現状

フィランソロピーはまだ成長余力がある

- ◆遺贈寄付の増加と広がり(相続推計40~50兆円/年 一部寄付意向41%)
- ◆富裕層の社会貢献が広がりを見せつつある(日本フィランソロピック財団の誕生の効果)
- ◆公益信託法・公益法人法の改正、遺言のデジタル化の法制審検討、コロナでのクラウドファンディングの日常化は今後の成長可能性

しかし、課題もある

- ◆遺贈寄付の啓発の官民連携不十分
- ◆現時点では財団設立の困難さや政府の管理志向が障壁
- ◆寄付教育が進んでいない日本/EMDEへの接続の弱さ



日米英3カ国の個人寄付総額比較

個人寄付総額と名目GDPに占める割合



2020年

1兆2,126億円



0.23%
名目GDP比



2020年

34兆5,948億円

現地通貨額: 3,241億ドル



1.55%
名目GDP比



2018年

1兆4,878億円

現地通貨額: 101億ポンド



0.47%
名目GDP比

具体策①アウトカムファンドをODA主導で組成し民間資金共創を誘発

アウトカムファンドを無償資金協力の事業として実施可能にすることで、「意識」「知見」「エコシステム型連携」において主導的役割を果たす

アウトカムファンドは重要な民間資金 共働ドライバーになる

- ◆インパクトビジネスのアウトカムに対してグラント供与する仕組み
- ◆ブレンデッドファイナンスの誘発効果、信頼補完効果
- ◆支援法人数の10倍以上の最先端インパクトビジネス知見の集約化



民間主導で誕生したEducation Outcome Fund
はユニセフがホストする形に移行

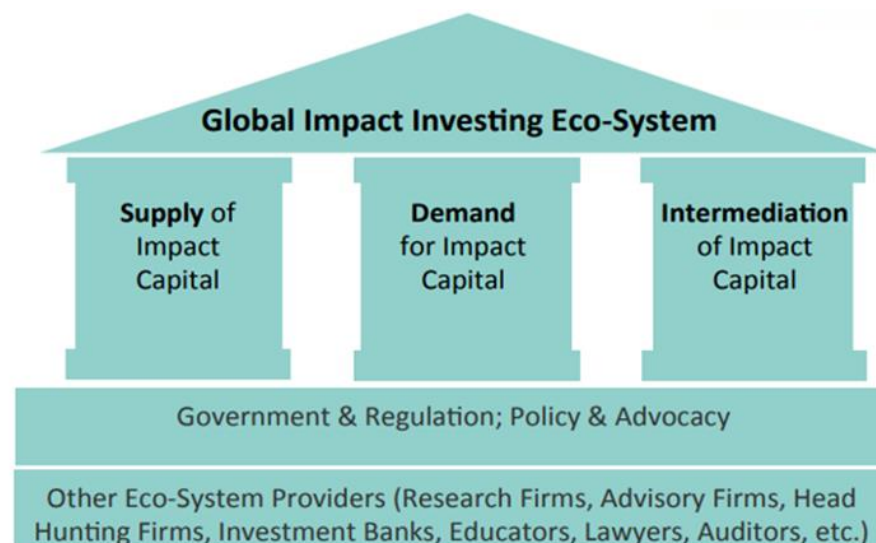
韓国SKグループと連携した日本のアウトカム
ファンド(JFRA運営)が2023年開始

具体策②民間資金最適化のエコシステムの「熟成」にどう貢献するか

この10年、民間主導で育まれつつあるグローバル・リージョナル・ローカルなエコシステム形成への貢献

エコシステム成熟への支援

- ◆ Asia Venture Philanthropy Network, Africa Venture Philanthropy Alliance, GSG、GIIN、Impact Frontiers等の発展
- ◆ 他者主導のエコシステム形成努力へのODAによる支援の拡大（調査、政策アドバイザー協力、マッチング支援、データ提供等）



新興・途上国の インパクト・フィランソロピーの推進

- ◆ 新興・途上国で隆興しつつあるNew Philanthropistたちとの対話と連携
- ◆ インパクト・フィランソロピーの誘発と支援、国際的連携促進
- ◆ 新興・途上国のインパクトファンドとの接続支援

具体策③総額としてのグローバルサウス向け民間資金を増やす

ファシリテーターとしてのNGO・インパクトビジネスの民間資金獲得支援

リージョナル/イシュー・グラント(N連進化)

- ◆大きな民間資金をもたらすためには、現場視点でのファシリテーターやインパクトファンドの存在が必要
- ◆NGOが二国間支援に制限され、ハード中心支援になる現行のNGO連携無償では規模、柔軟性ともに誘発性が発揮されない
- ◆数億円規模でリージョナルに活用可能なN連スキームの新設が必要

NGO向けマッチンググラントの導入

- ◆UK Aid Matchをモデルとしたマッチンググラントモデルの導入
- ◆個のフィランソロピー意識が高まることがアセットオーナー全体の意識の変化につながる

(参考)UK Aid Match(英国)

目的：開発途上国で最も貧しい人々にリーチする市民社会の事業を強化するものであるとともに、英国政府の援助に英国国民の意思を反映させ、国民に国際開発課題に関与する機会を与えるもの。

寄付額に応じたマッチンググラントの仕組み

2013～2020年実績：

- 英国国民450万人が寄付（内38%が新規）、
- 各団体が動画等を作成し、露出度の高い寄付